

緊急事態宣言が解除されるも業況低迷

3月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

3月21日に1都3県で延長された緊急事態宣言が解除され、経済活動の回復が期待されるも、多くの業種で景況は低水準。特に飲食店と宿泊業では厳しい状況が続く。また、自動車関連業者は、半導体不足によりSUBARUが操業停止するなど、先行き不透明感が増している。

製造業	食料品		パンは、飲食店と異なりテイクアウト中心のため売上は微減にとどまる。菓子は、卒業式が開催され、彼岸関連の注文も多く売上増加。製麺は、小売向けは例年並み、業務向けは依然として厳しい中、5月以降の小麦の値上げを憂慮。酒造は、全体的に売上減少。食肉は、コロナと豚熱の影響は出ていないが売上減少。
	繊維・同製品		桐生織物は、景況は厳しいものの、展示会に多くの来場者が訪れ、卒業式等で和装姿が見られるなど根強い需要に期待。刺繍は、若干好転するも4月以降の見通しに不安。繊維製品は、既存取引が2～5割程落ち中、医療用ガウンに代わる新規取組が急務。伊勢崎織物は、展示会や販売会が中止となるも前年並みで推移。
	窯業・土石製品		生コンは、県央と西毛で出荷が増加、東毛で出荷が減少し、全体では若干前年を下回る。砕石は、西毛で災害復旧工事及び幹線道路工事によって売上が増加、吾妻では出荷量が増加し運搬車両が不足。砂利は、需要の落ち込みに伴い在庫量が若干増加。
	機械・金属		自動車関連は、コロナの悪影響からの脱却を感じるも、半導体不足の影響が著しく、SUBARUの操業停止の長期化も予想される中、下請企業は生産体制の調整に迫られる。鍍金は、半導体製造装置と工作機械部品の受注が上向くも、前年同月比では全体的に悪化。電機は、在宅時間の増加で家電機器が好調。
	その他の製造業		木材は、品不足のため高グレード製品の単価が上昇するも売上は前年並み。印刷は、年度末需要が前年を下回り売上減少し、廃業を検討する組合員も見受けられる状況。ゴム製品は、半導体不足の影響で自動車関連の受注が落ち込み、前月に引き続き設備稼働度が低下。
非製造業	卸売業		卸団地内企業は、事業再構築補助金への関心が高い。タイヤ卸は、コロナの影響で乗用車の利用機会が低下し需要が減少、販売チャネルのEC化も加速し中抜きに苦戦。再生資源卸は、工場からの鉄屑発生量が減少するも市況は横ばい、一方、古紙は集団回収の中止に伴い集荷量が減少する中、市況は回復傾向。
	小売業		家電小売は、テレビとエアコンの動きが鈍く売上減少。中古車オークションは、出品台数は依然として不足するも、需要期のため成約台数は増加。燃料小売は、コロナの影響で需要の落ち込みが続く。生花小売は、彼岸や送別行事に改善の兆しが見え、今後に期待。商店街は、依然として人通りが少なく飲食店が厳しい。
	サービス業		温泉旅館は、愛郷ぐんまプロジェクト第2弾が始まり、売上増加する地域がある一方、前回ほどの反響はなく売上減少した地域も見られる。自動車整備は、需要及び売上ともに前年並みで推移。不動産取引は、土地の取引が低迷する中、賃貸物件は需要期であるが盛り上がり欠ける。建築設計は、景況が悪化し売上減少。
	建設業		解体工事は、年度末工事の大半が完了し、4月以降の工事は減少する見通し。塗装看板は、コロナの影響で前月に引き続き一般住宅の外壁塗装の塗替え需要が落ち込み、売上減少。鉄構は、大規模案件の動きはあるが、100トン以下の中小規模案件は少なく、安値案件であるため受注を躊躇。
	運輸業		年度末の繁忙感を感じられず、食料品以外の荷動きは低調で推移、帰り荷の確保も困難な状況。また、燃料価格の値上げが続き今後の収益に与える影響が懸念される。野菜関連は、生産量は前年並みであるが、農協を通じた輸送量は減少傾向。引越の需要は例年並み、卒業式に関連する貸衣装の輸送量が増加。

※本調査は、情報連絡員55人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

● 鉱工業生産指数(季節調整値) 108.5(前月比+11.2%)「県統計課・2月」
● 求人倍率(季節調整値) 新規1.69倍:有効1.16倍「群馬労働局・2月」

● 大型小売店販売額 252億円(前年同月比▲3.4%)「経済産業省・2月」
● 消費者物価指数(全国) 101.6(前年同月比▲0.4%)「総務省統計局・2月」
(鉱工業生産指数は27年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)